

06-02-22 村岡

環境 WG ワークショップ の報告

日 時：平成 18 年 2 月 14 日 13:00～17:30

場 所：県立人と自然の博物館

参加者：松本委員長、伊藤、浅見、草薙、谷田、岡田、法西、長峯、佐々木、土谷、奥西、
加藤、酒井、中川、村岡（順不同）

「人と自然の博物館」から：江崎先生、田中先生、三橋先生、服部先生

河川管理者・事務局の関係者

コンサルタントの関係者

1. ワークショップ開催の趣旨

環境 WG で検討する自然環境問題について、「武庫川の健康診断図（案）」を主要資料とし、「人と自然の博物館」専門家のアドバイスを受けながら、ワークショップ形式で課題や要望をまとめる。

2. ワークショップの進め方

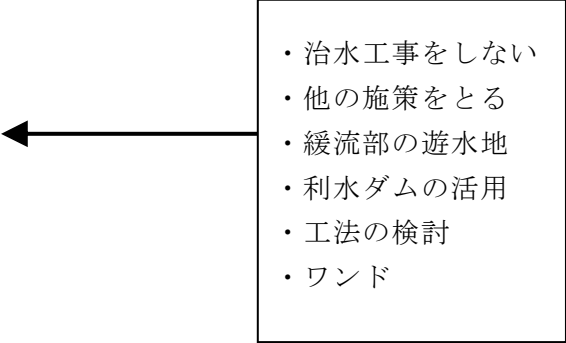
委員を 5 名ずつ、A, B, C の 3 グループに分け、今後の河川整備における治水・利水・環境の検討における留意点がある程度浮き上がることを取りまとめの目標として、各グループがチェックリストに基づいて検討し、そのまとめを最後に発表して意見を交換する。まとめのための検討課題は次の I、II、III である。

3. まとめ発表の主要な内容

I 優れた自然環境が残された地域とその保全対策

[A グループのまとめ]

- ・武庫川溪谷
- ・羽束川溪谷
- ・青野川溪谷
- ・青野ダム下
- ・福島大池下
- ・西谷の自然
- ・森林の保全
- ・緩流域の生き物

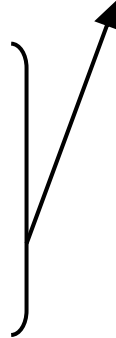
- 
- ・治水工事をしない
 - ・他の施策をとる
 - ・緩流部の遊水地
 - ・利水ダムの活用
 - ・工法の検討
 - ・ワンド

[B グループのまとめ]

- 武庫川上流域
 - ・田園・川は泥底
 - ・オギの群落
 - ・タナゴ・オグラコウホネ・その他



- 稀少種の保護
 - ・ミヤマアカネ
 - ・アオハダトンボ
 - ・トゲナベブタムシ
 - ・ツクシガヤ
 - ・ギンイチモンジセセリ
 - ・オグラコウホネ



- 武田尾溪谷
- 羽束川上流～中流

[C グループのまとめ]

- ・篠山川・武庫川の分流〔分水界〕を残す（旧舟運）
- ・草野駅付近の河川自然を残す
- ・藍本の洗堰（せき守の会）
- ・「曲」地区（地形、歴史）
- ・羽束川上流域のオオサンショウウオ
- ・有馬川、有野川上流溪流地帯（生物関連以外で、残したい環境を挙げている。これは、後述のアメニティ河川をイメージしている。）
- ・武田尾溪谷全体の保全
- ・潮止堰の果たしてきた価値、役割

II 環境面で課題があると考えられる地域とその保全対策

[A グループのまとめ]

- ・流量不足 利水との調和
- ・直線化（単純） 洲の再現（川の蛇行化）
- ・三面張河川 床抜き（河底面をコンクリート張りしない）
- ・外来種 田中先生教えて！！
- ・ツルヨシの河原 ツルヨシが生育できる河原の再生（工法）
- ・礫原の復元 高水敷の礫原化による貴重植物の生育の場
- ・干潟 テトラポットを置く（上流の工事残砂利用）、貴重植物の生育の場
- ・砂防緑化 砂防緑化
- ・河畔林 河畔林を作る

・流域下水 甲武橋まで戻す(下水等のバイパスによる減水)

——発表についての質疑等——

1) 高水敷に礫河原を作ることは、生態にとって好ましくない。礫原は洪水等の攪乱のある場所にできる。

⇒ 意見の意図は、六甲の真砂の堆積部をグラウンド化せず、河原固有の植物の生育やイカルチドリの生息ができる環境とする。

2) 利水ダムの治水転用の意味は何か。

⇒ 利水ダムの、利水容量の余裕を、治水に転用することにより、治水効果を期待するもの。

3) ツルヨシは、水中の窒素・りんを吸収する。その効果も、期待してはよいのではないか。

⇒ 植物が成長に使った分だけ、減少する。しかし、その植物を、如何に系外に持ち出すかが、問題である(そのまま枯れてしまえば、再び水中に戻る)。ただ、水溶性の窒素・りんを固形化することは評価できる。

[B グループのまとめ]

- ・相野川の三面張り ⇒ 自然工法で復旧
- ・オギ群落の保護
- ・青野ダムのブラックバス ⇒ 駆除の方法(せつかくダムにたどりついては餌になるだけ)
- ・新三田駅周辺(内神川)
 - ・遊水池対象地区に導水路 ⇒ 生物種の増加
 - ・草刈りなど ⇒ 環境学習の一環として
- ・全体
 - ・河川緑化(河川管理上、堤防緑化は問題があるが、水辺の生物環境の再生に!! 桜堤ばかり増え、マツが減っている。)
- ・水系(流域を含めた健康診断 ⇒ ため池1228ヶ所)
 - ・武庫川の健康診断 ⇒ 武庫川流域の水辺の健康診断が欲しい
 - ・ため池(1228ヶ所あり 武庫川流域の特性)、湿原、湿地帯等を含める
 - ・その他湧水、伏流水等、武庫川水系としてとらえる(ため池には武庫川の伏流水により形成されたものもある)
- ・下流域 潮止堰、床止め工などに問題 ⇒ 整備計画に対応
(潮止堰は魚類の遡上阻害となっており、対策が必要。また土砂の流下を抑止しており、これが干潟消失につながっているのではないか。)
- ・流量の回復対策
- ・伏流水のある所、湧水池がこわれる
- ・「ジュクジュク」の土地の価値を認める
- ・河口部の干潟再生
- ・下流域(宝塚より下流)の稚アユ、ウナギの消滅 ⇒ 水量の減少

[C グループのまとめ]

- ・落差工〔随所に有り〕の高さを分ける（河床の安定上必要であるが、分割して高さを小さくしたい、一段を三段に）
- ・ゴルフ場の農薬問題（魚類への影響等、データが無く影響があるかどうか判らない）
- ・河道内に流れの筋をつける（上流の平野部の改修地、低水路の固定）
- ・後川発電所の規模、存在意義（発電バイパスの減水、水量の返還の可能性）
- ・有野川、有馬川の位置付け（アメニティ河川）
- ・潮止堰の意義明確化

Ⅲ 環境情報が不足していると考えられる地域やその他の検討項目

〔A グループのまとめ〕

- ・ホテルの情報
- ・明るさ 三面張

〔B グループのまとめ〕

- ・小中学校の環境学習（流域の小、中学校が武庫川と関連してどのような環境学習を行っているかという情報）
- ・環境活動をしている住民グループ、ネットワーク（武庫川流域で環境活動をしている住民グループの情報と流域全体でのネットワーク化）
- ・企業、工場の環境への対応（流域にある企業、工場がどのような環境対策、環境活動をしているか、そのなかで武庫川の環境に関係しているものはあるか、その情報、ISO14001に結びついているものはあるか）
- ・流域水系の水辺環境（e x ため池、湿原）
- ・青野ダムの魚道等調査データ（委員会に入っていない）（青野ダムの魚道は有効との調査データがある（三宅課長）が、流域委員会には情報が入ってきていない（25種類くらい確認））
- ・水質汚濁源の情報（水質汚濁源の情報と時代による変化（青野ダム近辺）面泥負荷、牛舎、鶏舎など）

〔C グループのまとめ〕

- ・潮止堰調査データ不足
- ・汽水域の生物情報
- ・平水量、河床材料の図示（健康診断図や河川診断図に、平水量や生物と関連する情報（河床材料、等）を追記してはどうか。）
- ・流域環境学習拠点（環境学習の拠点や適地と根拠を整理）
- ・県条例、文化財
- ・ソウ類の付着データ
- ・森林の河川水質におよぼす影響（森林の水質への影響（汚濁源か、浄化源か）がハッキリしない）
- ・生物面から見た適正流量の必要性

- ・ 冬期湛水田、アイガモ農法

4. 今後の作業

本ワークショップの発表内容について、「人と自然の博物館」専門家によって整理検討され、後日そのまとめの提示を受ける。環境 WG はその結果を見て今後の検討の進め方を考える。

以 上